

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：阿賀川 長井地区における河道掘削後の環境について	
水系/河川名：阿賀野川水系阿賀川	河川分類：大河川
河川の流域面積：6060km ²	整備計画流量：4800m ³ /s
セグメント：M	
事業：河川改修	事業開始年度 平成21年度
目標設定：なし	段階：D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：流下能力の確保	
工法(主な)：掘削(高水敷)	
配慮事項(主な)：その他	

背景・課題、目標設定

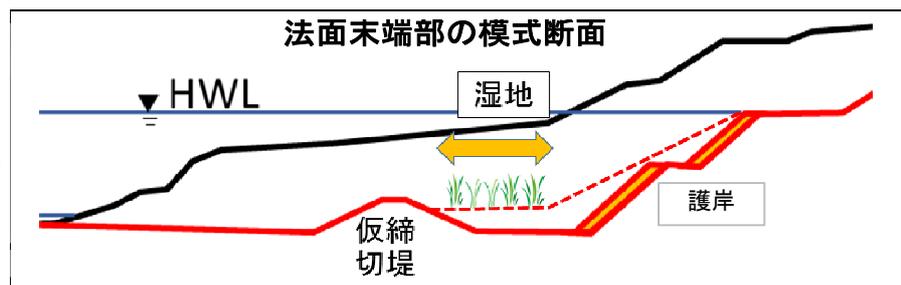
【背景】阿賀川直轄管理区間の最下流部は、長井・泡の巻・津尻の3地区が狭窄部となっており、洪水時の水位上昇により直上流の地域ではたびたび内水氾濫被害が生じてきた。こうした被害を防止するため、狭窄部の河道を掘削し拡幅する工事を昭和58年度から順次実施してきた。津尻・泡の巻地区はすでに完成、長井地区では平成21年度から工事着手し、事業を行っているところである。

【目標設定】特に意図したわけではなかったが、長井地区の河道掘削箇所では湿地が形成され、そこに重要種を含む湿生植物が生育するようになった。本報告では、湿地創出することができた要因や重要種等の湿生植物の供給源について考察することで、今回の事例を再現可能なものとし、今後の掘削や自然再生に活用したい。



取り組み内容・対策例

- ・長井地区では阿賀川の右岸2.5km付近の河岸斜面を291,000m³掘削することとなっている。
- ・法尻は、今後の護岸工に備えて、仮締切堤を残す形で掘削した(右図赤点線)。その結果法尻に溝状地形が形成され、湿地が創出された。
- ・この現象を今後の掘削・自然再生に生かすために、メカニズムを分析した。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

【調査結果：水たまり・湿地に生育する植物】

調査の結果、タコノアシ、ミクリ、サジオモダカ、ツルアブラガヤといった重要種を含む湿生植物等が77種確認された。

【考察：重要種の生育する湿地を創出できた理由】

- ・法尻を溝状に掘削したことで、末端部からの湧水や水田からの排水を取り込み、これらを水源とする湿地・水たまりが創出された。

- ・また、溝状地形を平水位よりも高い位置に設けたことで、洪水時に砂礫成分を堆積させず、泥湿地状態が維持された。

- ・湿地に生育する植物の起源は、現地の埋土種子や出水時に阿賀川上流から供給された種子などが考えられる。阿賀川流域にはこれら植物の生育地が点在し、下流域への供給源となり得る。

【今後の対応方針】

法尻を溝状に掘ることで容易に湿地を創出できることがわかった。これを環境を改善するひとつの方法として活用できればと思う。



備考

問い合わせ先 北陸地方整備局 阿賀川河川事務所 工務課

電話番号 0242-26-6489